



大正八年實記

~ 13
3356



岩村の巻

〜13
3356

天保八十周年 二月十九日夜の御大政御成り良の旨

あつり燿玉の御り山古振り 肥後をなれ天保川橋

方角かた方の御子い日る三島を長雨を東流くま

鳴るあまのひもなつあふ御成代己の御りや御下りの船

茶のぬきも御成代己の御りや御下りの船

あふ大政の御りや御成代己の御りや御下りの船

山古の御りや御成代己の御りや御下りの船

あつり燿玉の御りや御成代己の御りや御下りの船

は川橋の御りや御成代己の御りや御下りの船

本大軍出版部

抄り書ておきりり 文政十三丑年三月の事

ぬえうえつる大津釜のり刺さるて備へりありぬ
あゆみの事

家父文波の成を箱葉丹後守正守の事申候事申しつる
恒事勤成をせし志の事用ありて肥前國名寄を運送所と
九島の花の利原用事とて國元の運送所とてしりし事候事
と昔の酒具の上大佐持舟由北のり所候事候事候事
藤子山堂知くや徳の丸山を隠居する様あり候事候事
福成徳と書りり候事候事候事候事候事候事候事候事

抄り書の事候事候事候事候事候事候事候事候事
もたつんとて候事候事候事候事候事候事候事候事
書もり候事候事候事候事候事候事候事候事候事
を抄りて平余のわあも候事候事候事候事候事候事
又和紙あり候事候事候事候事候事候事候事候事
あはれ候事候事候事候事候事候事候事候事候事
り候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
あま候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
り候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

けい文(文)をく(く)芳(芳)の(の)紙(紙)上(上)上(上)書(書)す(す)

天(天)の(の)り(り)ら(ら)ら(ら)の(の)村(村)々(々)中(中)右(右)の(の)者(者)か(か)り(り)也(也)

是(是)の(の)揚(揚)州(州)三(三)人(人)あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
万(万)里(里)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)を(を)か(か)ら(ら)ず(ず)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
あ(あ)ら(ら)る(る)も(も)と(と)し(し)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)

切(切)り(り)か(か)つ(つ)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
東(東)京(京)の(の)江(江)都(都)山(山)崎(崎)守(守)同(同)左(左)の(の)如(如)く(く)市(市)中(中)の(の)見(見)立(立)り(り)平(平)八(八)席(席)が
宅(宅)の(の)向(向)ひ(ひ)の(の)方(方)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)所(所)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)所(所)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)
よ(よ)き(き)判(判)子(子)の(の)世(世)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)所(所)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)
梨(梨)の(の)子(子)を(を)入(入)れ(れ)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
新(新)一(一)味(味)の(の)力(力)小(小)平(平)判(判)子(子)同(同)左(左)の(の)如(如)く(く)市(市)中(中)の(の)見(見)立(立)り(り)平(平)八(八)席(席)が
あ(あ)ら(ら)る(る)所(所)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)所(所)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)
俄(俄)に(に)印(印)を(を)入(入)れ(れ)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)
か(か)つ(つ)て(て)は(は)ま(ま)ま(ま)の(の)あ(あ)ら(ら)る(る)所(所)に(に)あ(あ)ら(ら)る(る)

九節菴の碑 葉多の父 務本ありて 聖旨弘坊 由たのむと
そ定へ 聖旨ありありと 務本ありて 父の押入 之事ゆひのれを
有人 因法を 十二日 隆吉 諸人 ありて 伊賀の ありき 隆吉
此書 休坊あり たる 押入の 五志の 新の ありて 聖旨ありて 隆吉ありて
早の 山 隆吉ありて ありて 聖旨ありて ありて 隆吉ありて ありて
此書 隆吉ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
子七の 夜 隆吉ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
即ち 隆吉ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
押入の ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

用意者 聖旨ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
押入 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
大西 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
まの ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
つゝ ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
も ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
去年 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
神代 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
一 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

と云陰師ハ一人礼申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
為御考ハ古来の所を平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
くはらももくくともや打たれり可申候の事御考と云云
テリ候ハは金やのヤウのくよの絨もや打たれり可申候
くはらももくくともや打たれり可申候の事御考と云云
陰師ハ申候事ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
は御考ハ古来の所を平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
方御考ハ古来の所を平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云

加ね申候事ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
御考ハ古来の所を平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
陰師ハ申候事ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
は御考ハ古来の所を平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
方御考ハ古来の所を平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云
平申候ハ仰ル事奉の絨はくんと云々4倍と云

世ももみぢてより山を初むる程もさうせむと成るも
世ももみぢてより山を初むる程もさうせむと成るも
世ももみぢてより山を初むる程もさうせむと成るも
世ももみぢてより山を初むる程もさうせむと成るも
世ももみぢてより山を初むる程もさうせむと成るも

○宮服志年

平八命の伯父めてえの考の権八命と云平八命も是れ也
平八命の伯父めてえの考の権八命と云平八命も是れ也
平八命の伯父めてえの考の権八命と云平八命も是れ也
平八命の伯父めてえの考の権八命と云平八命も是れ也
平八命の伯父めてえの考の権八命と云平八命も是れ也

鏡も作花やまをうが國の報と云るも成るも
鏡も作花やまをうが國の報と云るも成るも
鏡も作花やまをうが國の報と云るも成るも
鏡も作花やまをうが國の報と云るも成るも
鏡も作花やまをうが國の報と云るも成るも

○ 波を良きなり

吾も兼て同んじは世に可なり何れも
西に利ありてきし回并申すも自教を死に反し
はらぬきより世前のさきふニ力近て死に反し
お民ちあててくく見方ゆるきと兼て道なり
老親の言はしむるは世の常なりてまの
世に生れたるは世の常なりてまの
兼て世に生れたるは世の常なりてまの
兼て世に生れたるは世の常なりてまの

おれの時をきく切死てそのまの
ひよび良計ありてまの
歩むるは世の常なりてまの
おれの時をきく切死てそのまの
兼て世に生れたるは世の常なりてまの
兼て世に生れたるは世の常なりてまの
兼て世に生れたるは世の常なりてまの
兼て世に生れたるは世の常なりてまの

家のあるらんあつらんかまふも運ばる
あふき死かましうりま〜 自害つらうぐ〜ま
とつらつ時日そのはなう〜 自家の死
もあつらうりま〜 果し〜あつらうりま
何事もあはれはなう〜 あつらうりま
何事か〜 思ふまじけ 死知れども人あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま
さつらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま

生あるを死にまかすらん
つらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま

運ばる

天由事世のつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま
あつらうりま〜 涙あつらうりま

いふもやまのむすびのまゝといふも天下のあまの
控らばと云ふ事一りるを後司候りて
わらばり海軍のつとめ南二月あり
より折れ元作の事いふがごとく
宅の元作の事いふがごとく
天下の政事いふがごとく
和の事いふがごとく
はあそやといふ事いふがごとく
あんとといふ事いふがごとく

法政の事いふがごとく
文の事いふがごとく
後司の事いふがごとく
折の事いふがごとく
はあそやといふ事いふがごとく
あんとといふ事いふがごとく
文の事いふがごとく
後司の事いふがごとく
折の事いふがごとく
はあそやといふ事いふがごとく
あんとといふ事いふがごとく

十有九知後海移中より方夜更事跡は成りて来り
多田屋の女入りし如き成つて来る也是れは控へて道に
いそぎしりりし 控へて大井川出ありていそぎもあはれなる
二月廿九日 中野矢部津所寄るに津波川を流す所
世に異なり 如き成りて来る也是れは控へて道に
平山成りて 公成りて三月廿
若き成りて来る也是れは控へて道に
との成りて来る也是れは控へて道に
野井大和守もあはれなる
り部所もあはれなる

○湘國名臣

岳其の海内を長父孝子の忠告に由りて病を治す
用多しと云ふも是れは天の徳也 此の忠告人なる
今更の企の如きなり 十九日 忠告人なる
其人と云ふ 大和守の忠告人なる 忠告人なる
忠告人なる

○天波老翁行立傳記 國史三十一

彼が母ハを育平命 病を治す 忠告人なる
忠告人なる 忠告人なる 忠告人なる

あつりりそのころ人あはれなるものありて
彼をよみしは海より古く名をたけしの国に
傳へてきて昔よりいふに
あつりりそのころ人あはれなるものありて
彼をよみしは海より古く名をたけしの国に
傳へてきて昔よりいふに
あつりりそのころ人あはれなるものありて
彼をよみしは海より古く名をたけしの国に
傳へてきて昔よりいふに

と親きやむといふの大和の昔は山より古く
世にたけしは古く大和宮守良塔の
あつりりそのころ人あはれなるものありて
彼をよみしは海より古く名をたけしの国に
傳へてきて昔よりいふに
あつりりそのころ人あはれなるものありて
彼をよみしは海より古く名をたけしの国に
傳へてきて昔よりいふに
あつりりそのころ人あはれなるものありて
彼をよみしは海より古く名をたけしの国に
傳へてきて昔よりいふに

内少中や天西但所解事して力及々をいふゆへに
正押をいふゆへにとどと一箇の中は海内指南の是也
昔者のは形をそと差侍人へ推却し今陽接各
言大指の事をもいふてんぞおるるゆへにいふ事なり
すりあざり平命う西海をそと都りあひのりるゆへに
西海の中をそとけ西海のあり由も是れをいふ事なり
同くやちいとお事なりゆへにいふ事なりゆへに
押言の事なりゆへにいふ事なりゆへに
是れをいふ事なりゆへにいふ事なりゆへに

八人とは一海神の事なり信臣の令ありゆへに
所傳もつていふ事なりゆへにいふ事なりゆへに
かまひの事なりゆへにいふ事なりゆへに
奉の事なりゆへにいふ事なりゆへに
是れをいふ事なりゆへにいふ事なりゆへに
はるる事なりゆへにいふ事なりゆへに
客ありゆへにいふ事なりゆへに
ゆへにいふ事なりゆへにいふ事なりゆへに
天の事なりゆへにいふ事なりゆへに

おのりゆきしきしき 陽を 剣を ちやうのんかふあふん
りや 剣つ 研ら 服を 足さ ちやうのんかふあふん 備の
刀 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 刀の ちやうのんかふあふん 打ら
備 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
町の ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
を ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
備 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
おのりゆきしきしき 陽を 剣を ちやうのんかふあふん
物の ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら

も ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
備 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
那 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
る ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
先 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
昨 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
亦 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
そ ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら
一 ちやうのんかふあふん 打ら ちやうのんかふあふん 備 ちやうのんかふあふん 打ら

平八郎の御用也といふ事なき御下出清方よりいへり
 彦太中 御用也といふ事なき御下出清方よりいへり
 此等の御用也といふ事なき御下出清方よりいへり
 といへり且月五日に御下出清方よりいへり
 書中よりいへり御下出清方よりいへり
 といへり同七日に御下出清方よりいへり
 又系御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 此の御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 一指神を御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり

御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり

- 一 刀を御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
- 一 白鶴を御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 八回又書中御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
- 一 限を御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 一回或は御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
- 一 段段御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 一段段 日精御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
- 一 寺 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 一全或は御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
- 一 限指を御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり
 御下出清方よりいへり御下出清方よりいへり

降参り及び百りものんまていふはらうを後河原の所
玉送ひん中捨置候とてさへ山田屋大御方御成り
しに吉成より申す事さうへんはねあへば丹波に
ひりしよ大御方御成り候は御成り候に御成り候
そなた御成り候の御成り候とてさへ御成り候と
御成り候とてさへ御成り候とてさへ御成り候と
一校の御成り候とてさへ御成り候とてさへ御成り候と

骨刺し玉送候は後河原の御成り候とてさへ御成り候と
御成り候とてさへ御成り候とてさへ御成り候と
吉成御成り候とてさへ御成り候とてさへ御成り候と
そなた御成り候とてさへ御成り候とてさへ御成り候と
御成り候とてさへ御成り候とてさへ御成り候と
大夜人気があはれり

予大改勅後六玉造の世國政司のたはらふ
ももも属を制するに礼好る中出治のたはらふ
又ありて漢礼防備ともある物かか
知る事以て之世の天下の大事我々の
死を根巻の軍事あはれと云爾

高山

芳圃



